

★ チャのチャノホソガ に注意★

ほ場調査での発生量が多く、またフェロモントラップでの誘殺数が
が平年より多くなっています。

多発するおそれがありますので、適切な防除対策をとってください。

発生状況等

- (1) 6月中旬に実施したほ場調査において、チャノホソガの発生量は山城で平年比多く、
丹波で例年比多く、丹後で例年並でした。

地域	項目	本年	平年(例年)値
山城	寄生芽率(%)	6.7	2.1
	巻葉数(m ² 当たり)	0.7	0.1
	発生ほ場率(%)	30.8	19.7
丹波	寄生芽率(%)	100.0	(24.6)
	巻葉数(m ² 当たり)	12.0	0.5
	発生ほ場率(%)	75.0	44.2
丹後	寄生芽率(%)	10.7	(21.7)
	巻葉数(m ² 当たり)	0.3	0.4
	発生ほ場率(%)	66.7	42.5

- (2) 府内に設置しているフェロモントラップにおけるチャノホソガ雄成虫の誘殺数は、
宇治市で平年比やや多く、綾部市で平年並、京丹後市で例年比多くなっています(図
1)。

場所	項目	本年	平年(例年)値
宇治市	誘殺数(頭)	1700.9	1184.4
綾部市	誘殺数(頭)	1066.5	1138.0
京丹後市	誘殺数(頭)	3578.7	(668.1)

※誘殺数(頭) : 5月第3半旬~6月第2半旬計

防除上の注意事項

- (1) 通常、年に5回世代を繰り返します。
- (2) 卵は3~7日でふ化し、新芽を加害します。
- (3) 新葉の裏側をよく観察して、水滴状の卵や幼虫の潜行等を確認してから、三角巻葉前の卵~幼虫の潜行初期に防除を行ってください。
- (4) 昆虫成長制御剤(IGR)は卵の時期に、他の薬剤は幼虫の潜行初期に散布してください。
- (5) 二番茶の収穫を予定している園では、萌芽から摘採までの期間が短いので、薬剤の使用時期(収穫前日数)に注意してください。
- (6) 防除薬剤を使用する際は、収穫前日数等、使用基準を厳守してください。

図1 チャノホソガのフェロモントラップへの誘殺状況

